

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

| 科目名          | ナンバリング  | 区分 (必修・選択)  | 単位数                           | 履修年次             | 開講学期等 |
|--------------|---|-------------|-------------------------------|------------------|-------|
| 神経系理学療法学実習   |   | 必修          | 1                             | 3                | 後期    |
| 担当教員         | 研究室   | 電子メール ID    | オフィスアワー                       |                  |       |
| 高村 浩司 他      | D307  | takamura-pt | 火曜日 13:00~15:00               |                  |       |
| 授業の目的・概要     | 神経系理学療法で学習した知識を基に、神経疾患の代表的症状の検査測定および治療手技を身につけることを目的とする。この実習では、初めに神経系理学療法において必要な知識を整理し、その後、神経疾患理学療法に必要な評価および治療手技について実技指導に移行し、最終的には代表的な神経疾患患者に対してペーパーシミュレーションを通して、基本的評価および解釈ができるように指導を行う。 |             |                               |                  |       |
| 学習上の助言       | この授業では、前期で学習した神経系理学療法学の知識が必要になるので、しっかり復習しておくことが望ましい。  |             |                               |                  |       |
| 教科書          | 標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第2版：監：奈良勲、編：吉尾雅春 他/医学書院  |             |                               |                  |       |
| 参考書          | 神経障害理学療法学Ⅰ/編：鈴木俊明、中山恭秀/メジカルビュー社<br>神経障害理学療法学Ⅱ/編：中山恭秀、鈴木俊明/メジカルビュー社  |             |                               |                  |       |
| 学生が達成すべき行動目標 |   |             |                               | 関連卒業認定・学位授与方針    |       |
| ①            | 中枢神経系の構造及び機能を説明できる。   |             |                               | PT (1) ~ (3)、(5) |       |
| ②            | 脳血管障害患者の検査と測定および評価を行うことができる。  |             |                               | PT (1) ~ (3)、(5) |       |
| ③            | 神経筋疾患患者の検査と測定および評価を行うことができる。  |             |                               | PT (1) ~ (3)、(5) |       |
| ④            | 脳血管障害患者と神経筋疾患患者の基本動作の分析ができる   |             |                               | PT (1) ~ (3)、(5) |       |
| ⑤            |   |             |                               |                  |       |
| ⑥            |   |             |                               |                  |       |
| 授 業 計 画      |   |             |                               |                  |       |
| 回            | 学習内容等   | 授業の方法       | 学習課題・学習時間 (時間)                |                  |       |
| 1            | 脳の区分と機能について復習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、GW       | 各脳葉の位置とその機能について復習する。          | 1                |       |
| 2            | 脳の区分と機能について復習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、GW       | 各脳葉の位置とその機能について復習する           | 1                |       |
| 3            | 下行伝導路と上行伝導路について復習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、GW       | 皮質脊髓路、脊髓視床路、後索-内側毛帯路を中心に復習する。 | 1                |       |
| 4            | 脳血管障害の分類とそれぞれの治療について復習する。<br>[担当: 高村 浩司]  | 講義、GW       | 脳出血と脳梗塞の主な原因と治療を中心に授業内容を復習する。 | 1                |       |
| 5            | 脳血管障害患者の検査と測定の技術を復習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価で工夫した点も紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]  | 講義、実技       | 運動麻痺と感覚障害の検査を中心に復習する。         | 1                |       |
| 6            | 脳血管障害患者の検査と測定の技術を復習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価で工夫した点も紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]  | 講義、実技       | 運動麻痺と感覚障害の検査を中心に復習する。         | 1                |       |
| 7            | 大脳基底核の構造と機能について復習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、GW       | 大脳基底核の構造と機能を中心に授業内容を復習する。     | 1                |       |
| 8            | パーキンソン病の理学療法について学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価および実際に行った介入を紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]  | 講義、実技       | パーキンソン病の病態及び評価を中心に復習する。       | 1                |       |
| 9            | 小脳の構造と機能について復習する。<br>[担当: 高村 浩司]  | 講義、GW       | 小脳の機能を中心に授業内容を復習する。           | 1                |       |
| 10           | 失調症状を呈する疾患の理学療法について学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について評価および実際に行った介入を紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、実技       | 失調の病態と評価を中心に授業内容を復習する。        | 1                |       |
| 11           | 歩行機能について運動学的視点と神経学的視点から学習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、GW       | 歩行における各相と筋活動について復習する。         | 1                |       |
| 12           | 上肢機能について運動学的視点と神経学的視点から学習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、GW       | 運動学的側面から上肢機能を復習する。            | 1                |       |

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

| 回  | 学習内容等   | 授業の方法 | 事前事後学習内容・必要時間 (時間)                        |
|----|---|-------|---|
| 13 | 脳血管障害患者の上肢機能の問題について実技を交えて学習する。<br>[担当: 高村 浩司]   | 講義、実技 | 授業にて行った実技の復習をする。 1                        |
| 14 | 脳血管障害患者の日常生活動作を学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について工夫した点も紹介する。<br>[担当: 駒形 純也]               | 講義、GW | 脳血管障害患者の介助方法を中心に授業内容を復習する。 1              |
| 15 | 代表的な高次脳機能障害について復習し、その症状に対する理学療法を学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験した症例について紹介する。<br>[担当: 駒形 純也]    | 講義、実技 | 失語や空間無視の病態と評価を中心に授業内容を復習する。 1             |
| 16 | 脳血管障害患者の寝返り・起き上がり動作の促通を学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験し工夫した点について紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]           | 実技    | 授業にて行った実技の復習をする。 1                        |
| 17 | 脳血管障害患者の立ち上がり・トランスファー動作の促通を学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験し工夫した点について紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]       | 実技    | 授業にて行った実技の復習をする。 1                        |
| 18 | 脳血管障害患者の歩行動作の促通を学習する。また、担当教員が実務経験の中で経験し工夫した点について紹介する。<br>[担当: 高村 浩司]                  | 実技    | 授業にて行った実技の復習をする。 1                        |
| 19 | 脳血管障害患者の病態を想定し、評価の実践を行ってみる。また、担当教員が実務経験の中で培った臨床的視点も講義する。<br>[担当: 駒形 純也]               | 講義、GW | 脳血管障害患者を担当したとき検査項目が挙がるように復習をする。 1         |
| 20 | 脳血管障害患者の病態を想定し、問題点の抽出および治療プログラムの実践を行ってみる。また、担当教員が実務経験の中で培った臨床的視点も講義する。<br>[担当: 駒形 純也] | 講義、実技 | 脳血管障害患者を担当したとき、評価結果から問題点が抽出できるように復習をする。 1 |
| 21 | 神経筋疾患患者の病態を想定し、評価の実践を行ってみる。また、担当教員が実務経験の中で培った臨床的視点も講義する。<br>[担当: 高村 浩司]               | 講義、GW | 脳血管障害患者を担当したとき検査項目が挙がるように復習をする。 1         |
| 22 | 神経筋疾患患者の病態を想定し、問題点の抽出および治療プログラムの実践を行ってみる。また、担当教員が実務経験の中で培った臨床的視点も講義する。<br>[担当: 高村 浩司] | 講義、実技 | 脳血管障害患者を担当したとき、評価結果から問題点が抽出できるように復習をする。 1 |
| 23 | 本科目のまとめを行う。<br>[担当: 高村 浩司]  | 講義    | これまでの授業内容を復習する。 1                         |
| 試  | 定期試験  |       |   |

達成度評価

| 総合評価割合 (%) |             | 試験  | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | その他 | 合計  |
|------------|-------------|-----|------|------|---------|-----|-----|
|            |             | 100 | 0    | 0    | 0       | 0   | 100 |
| 総合力指標      | 知識・技術力      | 80  | 0    | 0    | 0       | 0   | 80  |
|            | 思考・推論・創造する力 | 20  | 0    | 0    | 0       | 0   | 20  |
|            | 協調性・リーダーシップ | 0   | 0    | 0    | 0       | 0   | 0   |
|            | 発表・表現伝達する力  | 0   | 0    | 0    | 0       | 0   | 0   |
|            | コミュニケーション力  | 0   | 0    | 0    | 0       | 0   | 0   |
|            | 取組みの姿勢・意欲   | 0   | 0    | 0    | 0       | 0   | 0   |
|            | 問題を発見・解決する力 | 0   | 0    | 0    | 0       | 0   | 0   |

評価のポイント

| 評価方法 | 行動目標 |   | 評価の実施方法と注意点 | フィードバックの方法 |
|------|------|---|-------------|------------|
|      | 試験   | ① |             |            |
| ②    |      | ✓ |             |            |
| ③    |      | ✓ |             |            |
| ④    |      |   |             |            |
| ⑤    |      |   |             |            |
| ⑥    |      |   |             |            |
| レポート | ①    |   |             |            |
|      | ②    |   |             |            |
|      | ③    |   |             |            |
|      | ④    |   |             |            |
|      | ⑤    |   |             |            |
|      | ⑥    |   |             |            |

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

|         |      | 評価のポイント     |            |
|---------|------|-------------|------------|
| 評価方法    | 行動目標 | 評価の実施方法と注意点 | フィードバックの方法 |
| 成果発表    | ①    |             |            |
|         | ②    |             |            |
|         | ③    |             |            |
|         | ④    |             |            |
|         | ⑤    |             |            |
|         | ⑥    |             |            |
| ポートフォリオ | ①    |             |            |
|         | ②    |             |            |
|         | ③    |             |            |
|         | ④    |             |            |
|         | ⑤    |             |            |
|         | ⑥    |             |            |
| その他     | ①    |             |            |
|         | ②    |             |            |
|         | ③    |             |            |
|         | ④    |             |            |
|         | ⑤    |             |            |
|         | ⑥    |             |            |

備 考

担当教員：◎高村 浩司、駒形 純也

**教員の実務経験：**理学療法士として 29 年経験有

**実践的授業の内容：**本科目は実務経験の中で担当した症例（症例を特定できる個人情報の提示はしない）を提示しながら授業を展開し、臨床的視点についても講義する。

実習にふさわしい恰好で臨むこと。

学生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

**感染対策：**大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は対面授業の参加は認めない。

※今後のコロナウイルス感染症の感染状況など、社会情勢によって再度シラバスを変更の可能性がある。